

全国過疎地域連盟会長賞

福島県田村市

## 株式会社ホップジャパン

過疎地域のリソースを産業循環エコシステムで活用し  
中央あぶくまから発信、あぶくまブランドを造成する



写真協力：孫の手トラベルFoodCamp

ビールの原材料であるホップの栽培から手掛けており、夏にはホップの収穫体験を行っている。県内旅行会社の協力の元、地元ホップ農家の畑にて収穫体験を行い、ホップ畑に設置したダイニングで料理とクラフトビールを楽しむツアーなども開催している。

### 審査講評

#### 評価のポイント

- ▶ 震災をきっかけに遊休施設となったグリーンパーク都路を復興の拠点として有効活用し、異なる役割を持った人、こと、ものを有機的につなぎ合わせて地域振興を実現。
- ▶ 震災復興のためにスピード感をもって、田村市でしかできないオリジナリティのある持続可能な産業の仕組みを確立。

#### 審査委員のコメント

“100%地元産原料”というブランド力が強みに。

阿武隈高原の涼やかな気候、極めて情緒的なブルワリーを含む拠点の豊かな自然が、100%地元産原料で醸造されるビールの美味しさ、商品としての魅力にさらなる価値を付加していると感じました。

観光の目的として挙げられる上位項目が「食」。ブルワリーを核とした現在の敷地内でのさまざまなコンテンツの中に、食のコンテンツ（食体験、飲食店など）が加わり、より魅力的な拠点として発展することに、これからも期待したいです。



## 取組の概要

2000年代初頭に途絶えた福島県のホップ農業を地元農家と復活させ、ブルワリーを開業し、地域活性化の一翼を担っているほか、ビールの製造過程で排出されるホップや麦の粕を肥料として活用するなど、資源の再利用を行い、地球にやさしいまちづくりも実践している。

また、新しい価値観に基づいた企業誘致の手法「LESIP」にも取り組んでおり、実際にその理念に共感した人が移住を予定しているほか、新たな企業が地域に進出するきっかけにもなっている。



「循環」で持続可能な社会づくりを感じてもらうテーマパークを目指し、ビールを核に1次産業から6次産業化につなげていく。

「グリーンパーク都路」内の建物を一部改修して開設したホップガーデンブルワリー。



地元住民と協働してホップの手摘み収穫に適した新たな方法を開発するなど、途絶えてしまったホップ農業を新たな形で復活させた。



田村市都路地区の魅力を感じてもらい、人と人、人と地域に「つながり」が生まれるようにという思いの元、「つながりマルシェ」を開催している。

## 取組のKEY PLAYER



本間 誠さん

[株式会社ホップジャパン 代表取締役]

### ビール造りと地域への想いを形にしていく。

アメリカ留学でクラフトビールに感銘を受け、帰国後にホップ栽培を始めました。震災を受け、「残りの人生を地球のため、価値あるもののために使いたい」という思いから起業し、復興庁の紹介で、原発事故の被災地である都路町へ移住しました。初めはホップを栽培してくれる農家探しに苦労しましたが、今ではホップ栽培からブルワリーでのビール造り、提供までの6次産業を行い、さらには、製造過程で出るホップ粕も肥料として再利用するなど、0次産業と名付け地域で産業が循環する仕組みを理念として取り組んでいます。今後は、飲食店を誘致することで、県内外から人に来てもらえるようなテーマパークを目指していきたいと考えています。

審査による現地調査でのヒアリング対象者

本間 誠さん [株式会社ホップジャパン 代表取締役]

## 福島県田村市

団体名 ..... 株式会社ホップジャパン  
所在地 ..... 〒963-4702 福島県田村市都路町岩井沢字北向185-6  
連絡先 ..... TEL: 0247-61-5330  
E-mail: information@hopjapan.com  
URL: https://hopjapan.com/



自治体・団体の詳細はこちらからご覧いただけます。





## 全国過疎地域連盟会長賞

福島県昭和村

昭和村

### 夏秋期生産量日本一の昭和かすみ草「百年産地」を目指して



「花育」の集大成として、村内の中学生が東京都の大田市場で競り前PRを行う。

#### 審査講評

##### 評価のポイント

- ▶ カスミソウの「百年産地」を目指す、昭和村の生産者、JA、教育機関、自治体の協働の取組が、昭和かすみ草のブランド力を強化し、新規就農者の確保や極めて高い定着（移住定住）率につながっている点。
- ▶ カスミソウという地域資源を40年に渡って磨き上げてきた持続性、村の基幹産業としてさらなる発展に期待が持てるような、企画力と推進力。

##### 審査委員のコメント

#### 教育を重視した取組で、広がる地域資源の可能性。

新規就農者を増やすために最短1泊2日～最長4泊5日の日程で、先輩農家のもとで農機具の実習やマーケティングなどを学べる「かすみの学校」や、子どもたちへの「花育」など、地域資源をフル活用した取組のオリジナリティは、他の自治体の参考になり得ます。

食の世界では匂いの強いカスミソウは飲食店などのテーブル上には飾りにくい花の一つとされていますが、臭気を抑える技術をさらに進化させてPRすることで、これまでタブーだった飲食業界への販路拡大も見込めるのではないかと考えられます。



### 取組の概要

豪雪地帯という特徴を活かして、夏季の保冷に雪を使用する「雪室」を整備したことで、カスミソウの品質確保・向上が可能となり、夏秋期の生産量日本一、国内シェアの6割を達成している。

また、カスミソウ栽培の担い手確保・育成事業にも取り組んでおり、直近5年の就農定着率は100%であった。さらに、村内の小中学生にカスミソウ栽培体験（「花育」）を行っており、次世代のふるさとへの愛着の醸成と村の基幹産業への理解につながっている。



雪資源を活用した雪室を整備し、夏季の保冷に活用することでカスミソウの品質確保・向上を図っている。



インターンシップ事業「かすみの学校」では、村内のカスミソウ農家でUターン者を受け入れ、栽培体験を行っている。



「花育」の一環で村内の小中学生がカスミソウの収穫体験を実施。



生産者自らスーパーの店頭に立ち販促活動を行っている。

### 取組のKEY PLAYER



舟木 幸一さん  
[昭和村 村長]

#### カスミソウの力が地域の未来をつなぐ。

「自然減を社会増で補う」さまざまな取組を行っています。村では過疎化・少子高齢化によるカスミソウ栽培の担い手確保が課題となっていますが、インターンシップ事業による新規就農者の受け入れを行い、高い定着率を実現しているところ。また、村内の子どもたちにも小学生の頃から栽培に関わってもらうことで、村の産業への理解や、将来に渡るふるさとへの愛着形成などに寄与するよう取り組んでいます。

#### 審査による現地調査でのヒアリング対象者

- 永戸 敦さん [昭和村産業建設課 課長] / 菅家 祐博さん [昭和村産業建設課産業係 係長] / 栗村 良輔さん [昭和村教育委員会 教育長] / 土橋 康弘さん [昭和村立昭和中学校 校長] / 栗城 久登さん [カスミソウ生産者]

## 福島県昭和村

団体名 …… 昭和村  
所在地 …… 〒968-0103 福島県大沼郡昭和村下中津川字中島652  
連絡先 …… TEL: 0241-57-2111  
E-mail: sangyou@vill.showa.fukushima.jp  
URL: https://www.vill.showa.fukushima.jp/



自治体・団体の詳細はこちらからご覧いただけます。





全国過疎地域連盟会長賞

富山県氷見市

ろん でん くま なし  
論田自治会及び熊無自治会、  
ろんくま移住促進委員会

～ねこ"ろん"で"くま"なく歩いて住んでみて～  
ろんくま移住促進計画



すり鉢型の地形に森や集落が点在した、人と自然が織りなすろんくまの景観。

審査講評

評価のポイント

- ▶ 多様な地域づくりの取組を通じて、地域の内外の風通しを良くし、関係人口の広がりが移住者受け入れに向けた前向きな機運醸成につながっている点。
- ▶ 日常の活動をベースにしながら移住促進にも取り組むことで、各々の自治会の特徴を打ち出し人材を補充し合うことができ、「ろんくま移住促進計画」として戦略を形にし、魅力の発信、受け入れ態勢を充実させつつある点。

審査委員のコメント

“地域の味”を活かしながら、伝統を次世代へと受け継ぐ。

600年の伝統がある藤箕(ふじみ)や、地域の味である草もち、伝承料理などを地元里山に根差した資源と認識し、地元でのイベント開催時や市内の直売所で販売、提供することで関心を呼び、論田・熊無地区の前向きな姿勢を常に発信しています。他方で、さまざまな場面で担い手の高齢化にも直面し、藤箕の技術を受け継ぐ人材の育成、草もち加工でも技術だけでなく経営・雇用体制を含めた事業承継、集落運営でも「集落の教科書」づくりを通じた現状の棚卸しの作業などを進め、次世代への地域継承を求める機運の高まりが見出せています。



## 取組の概要

地域資源を活かしながら、住民にとってさらに住み良い地域、移住者など地域外から人が訪れる地域を目指し、地元特産の草もちの事業承継、自治会の負担を減らすためのLINEでの電子回覧板の運用、地元文化財を巡るウォーキングイベントの実施、マスコットキャラクターなどの制作といったさまざまな地域を盛り上げる取組を展開している。

各取組にキーパーソンがおり、世代間でバトンが受け継がれているほか、移住者や大学など地域外からの風が流れ込み、好循環が生み出されている。



春の桜を楽しみながら地域の文化財を巡る大人気ウォーキングイベント。



ろんくまマスコットキャラクターの「くまなくまタロー」と「ろんくまちゃん」。



ろんくま移住促進委員会の様子。地元住民、行政、大学が連携し、移住促進に向けた取組を検討。



地元で採れたヨモギやもち米でつくる「草もち」は地域の宝。次の世代へ地元の味と思いをつなぐ。

## 取組のKEY PLAYER



内 毅さん  
[ろんくま移住促進委員会 会長]



中原 修さん  
[ろんくま移住促進委員会 副会長]

### 多角的な取組の実現は、地域の協力があってこそ。

令和元年度の富山県の「中山間地農業再生支援事業」への取組を契機に、「ろんくま」(論田・熊無地区)が連携して暮らしやすい地域づくり、地域の活性化に取り組み始めました。現在は地域の特産品である草もちや藤箕、伝承料理の継承や、花の里ウォーク開催、マスコットキャラクター、集落の教科書作成など、さまざまな取組を行っています。一方で人口が減っていく中、今後活動の中心となる世代から負担を懸念する声も出ていますが、皆で協力しながら歩んできた地域の地力と地域外からの力をお借りし、課題解決に取り組んでまいります。

### 審査による現地調査でのヒアリング対象者

内 毅さん [ろんくま移住促進委員会 会長] / 中原 修さん [ろんくま移住促進委員会 副会長] / 伊東 翼さん [ろんくま移住促進委員会 事務局]

## 富山県氷見市

団体名 …… 論田自治会及び熊無自治会、ろんくま移住促進委員会  
所在地 …… 〒935-0258 富山県氷見市論田2057-3(論田自治会)  
〒935-0251 富山県氷見市熊無887-2(熊無自治会)  
連絡先 …… TEL:090-9108-2314(ろんくま移住促進委員会事務局 伊東)  
E-mail:ronkuma.himi@gmail.com  
URL:https://ronkuma.com/



自治体・団体の詳細はこちらからご覧いただけます。





# 全国過疎地域連盟会長賞

兵庫県豊岡市

## 特定非営利活動法人 本と温泉

### 地産地読



第1弾

志賀直哉  
『城の崎にて』  
『注釈・城の崎にて』



第2弾

万城目学  
『書き下ろし小説  
『城崎裁判』』



本と温泉  
Books and Onsen



第3弾

湊かなえ  
『書き下ろし小説  
『城崎へかえる』』



第4弾

tupera tupera  
『描き下ろし絵本  
『城崎ユノマトペ』』

「城崎でしか買えない本」を今までに4作品制作。城崎に来た際にはぜひ手に取っていただきたい。

### 審査講評

#### 評価のポイント

- ▶ 旅館の二世の会が、Uターンの方(後のNPOのアドバイザー)のアドバイスを受けながら、志賀直哉来湯100年に「文学と歴史のまち」を目指し、城崎に関する文学作品を出版し、城崎で売るNPOを結成した点。
- ▶ すでに4冊が出版され、土産物屋、旅館、外湯等50ヵ所以上で売られており、2万部を超えたものもある点。

#### 審査委員のコメント

温泉と文学を融合させた、ユニークな発想が際立つ。

城崎では、全体を一つの旅館と考えて外湯を大切にしてきた歴史があり、二世会(若旦那衆)からNPOに組織化し、その活動として本の出版を実現してきたことは大きく評価できます。

温泉観光地の活動として、文学作品を書いてもらう発想はユニークで、かつ困難な課題であると考えます。これまでの関係者の人脈を通じての執筆実現も引き続き期待し、さらには、新しいつながりの中での作品の実現など、さらなる話題を期待しています。



### 取組の概要

「本と温泉」は2013年の志賀直哉来湯100年を機に次なる100年の温泉地文学を送り出すべく、城崎温泉にある旅館の若旦那衆が中心になって立ち上げたプロジェクトである。

本をきっかけに「城崎のまちを訪れてくれること」等を目的に、城崎でしか買えない本を出版している。また住民、作者等と協力しながらイベント等も開催し、観光客のみならず、住民、作者等との交流も図っており、誘客促進やまちの活性化につながっている。



旅館・酒屋・お土産屋等が取り扱い店として協力し、まち全体で販売。



地域の子どもたち向けのイベントを開催し、本の魅力を発信。



歴代の作者が一同に集まったトークイベントも開催。地域と作家のつながりをとても大切にしている。



次回作「城の崎にて」のフォトブック付き英訳版を制作中。日本文学の魅力を世界へ伝えたいと考えている。

### 取組のKEY PLAYER



富田 健太郎さん  
[特定非営利活動法人本と温泉 理事長]

#### たくさんの縁が取組を成功へと導いた。

「本と温泉」は、2013年、志賀直哉来湯100年を機に、城崎温泉における文学という側面を活かし、より多くの方が城崎温泉を知り、その魅力を深く楽しんでいただくために発足してから、今年で10周年を迎えました。

発足当時は何をしたらいいかわからず、四苦八苦でしたが、豊岡市参与の田口幹也さんよりブックディレクターの幅允孝さんをご紹介いただいてから大きく動き出しました。その後、江口宏志さん、万城目学さん、湊かなえさん、tupera tuperaさんをはじめ、多くの方のご協力により4つの本ができるに至ったご縁に感謝しています。現在は、新しいご縁もあり、城崎と文学の魅力を世界に届けるような本を制作中です。

#### 審査による現地調査でのヒアリング対象者

富田 健太郎さん  
[特定非営利活動法人本と温泉 理事長]

田口 幹也さん  
[特定非営利活動法人本と温泉 アドバイザー]

高宮 浩之さん  
[一般社団法人城崎温泉観光協会 会長]

## とよおかし 兵庫県豊岡市

団体名 …… 特定非営利活動法人 本と温泉  
所在地 …… 〒669-6101 兵庫県豊岡市城崎町湯島78(城崎温泉旅館協同組合内)  
連絡先 …… TEL: 0796-32-4141  
E-mail: booksonsen@gmail.com  
URL: https://books-onsen.com/



自治体・団体の詳細はこちらからご覧いただけます。





全国過疎地域連盟会長賞

徳島県つるぎ町<sup>ちょう</sup>

# け か 家賀再生プロジェクト

## 家賀と藍をこよなく愛する家賀再生プロジェクト



世界農業遺産「にし阿波の傾斜地農耕システム」から生まれた、「食べる藍」を中心に、歴史ある集落の地域資源を活かした、活性化を目指す。

### 審査講評

#### 評価のポイント

- ▶ 家賀地域ならではの伝統的な農法・文化・歴史を資源として活用している点。
- ▶ 商品開発などを通じて地域内外のネットワークが形成され、輪が拡大。

#### 審査委員のコメント

民間企業を巻き込んだ、活動の輪の広がり进行评估。

2018年から活動をはじめ、この5年間で伝統農法での藍栽培を復活させたことに加え、パウダー加工した「食べる藍」を使った商品開発が地域内外の企業によってさかんに行われているという輪の広がりには驚きました。商品開発をはじめとした民間企業との連携は、一定の収益が見込めれば持続可能になりやすいため、プレイヤーとして民間企業をどう巻き込むかが重要だと考えられます。



### 取組の概要

徳島県西部「にし阿波地域」の中でも、最大規模の家賀集落では、年々過疎化が進み、集落存続が危機的状況だったが、平成30年に地域の伝統農耕が「にし阿波の傾斜地農耕システム」として世界農業遺産に認定されたことを契機に、地域外居住メンバー5人で「家賀再生プロジェクト」を立ち上げた。伝統農耕を活かした「藍」栽培を復活し、食用の「藍粉」を商品化。また、集落の伝統や文化などの紹介を通じた、地域活性化や雇用創出を目的に事業に取り組んでいる。



育てた藍を使って地域内外の食品業者等と協力し、商品開発や販路開拓を行い、積極的な魅力発信につなげている。



にし阿波の傾斜地農耕システムでは欠かすことのできない、カヤを使用した農耕手法を継承し、未来に向けた持続可能な藍栽培を実現している。



農業体験の受け入れ、農福連携の取組等で多くの団体と交流を増やし、関係人口の創出に努めている。



「にし阿波地域」の農業・観光・歴史・自然の魅力を伝える観光ツアーを実施。

### 取組のKEY PLAYER



枋谷 京子さん  
[家賀再生プロジェクト代表者]

#### 多様な製品に活用し、藍栽培の復活へ。

本プロジェクトは5年前の2018年から開始しました。亡き夫のお墓参りで訪ねていた家賀集落でも古くから行われている農耕が2018年3月に「世界農業遺産」に認定されたのをきっかけに、藍栽培の復活を企図して立ち上げました。取組で工夫した点としては、藍をパウダー状にした「食べる藍」という珍しい品目に着目したことです。この商品は、地場産品である藍を原料として活用することができますし、食用だけではなく化粧品にも活用できるなど、用途の幅広さが強みの一つです。今後の活動の方向性としては、集落内に宿泊施設がないため、集落へ帰省した出身者や観光客、視察者などが滞在できるような拠点となる施設を整備したいです。

#### 審査による現地調査でのヒアリング対象者

枋谷 京子さん  
[家賀再生プロジェクト代表者]

石田 修さん  
[家賀再生プロジェクト ボランティアガイド]

### 徳島県つるぎ町

団体名 …… 家賀再生プロジェクト  
所在地 …… 〒779-4107 徳島県美馬郡つるぎ町貞光字家賀道上474  
連絡先 …… TEL:0883-53-8787  
E-mail: kekasaisei.p@gmail.com  
URL: https://www.facebook.com/kekasaisei.project/



自治体・団体の詳細はこちらからご覧いただけます。

